

住みよいまちづくり情報誌

Vol.59

令和7年3月26日

発行 住みよいまちづくり新莊会
(水戸市新莊市民センター内)
(〒310-0036) 水戸市新莊2-11-2
Tel.029-221-7851

責任者 住みよいまちづくり新莊会
会長 川又 一郎

編集 新莊会広報部

印刷 常磐総合印刷株式会社
題字・坂 俊治

新莊学区の常住人口 世帯数 2,895

男 2,637 女 2,767 合計 5,404 (令和7年2月1日現在)

年齢別人口

0～14才 486 (8.8%) 15～64才 3,073 (56.1%)

【参考値】

65才以上 1,917 (35.1%)

(令和7年2月1日現在)



大賑わいのバザー

3月2日(日)、新莊市民センターにおいて「令和6年度新莊ふれあいまつり」が昨年度に続き開催され、晴天のなか、延べ3,000人の地域の皆様が参加し、おまつりを楽しみました。ホールにおいて開会式に続き定期講座・利用団体計9つの発表が行われ、小会議室では指圧体験教室、和室では石州流茶道、市民サロンではバザー、調理室では豚汁販売、駐車場・市民サロンでは肉まん、あんまんなど6つの模擬店販売が、それぞれ行われました。

発表会のあと、ホールにおいてバザーなどの収益金贈呈式が行われ社会福祉協議会新莊支部に寄贈されました。また、最後のお楽しみ抽選会ではホール満場のなか、十等賞から一等賞まで、五十二個の賞品が当選者に渡り、盛り上がり、のうちに閉会となりました。

新莊ふれあいまつり開催



抽選会での賞品当選発表



幸運の一等賞当選者



発表会(フォークダンス)

新莊会ホームページの紹介

新莊会や関係団体からの回覧等のお知らせをいち早く掲載しますのでご利用下さい。



名称「水戸市新莊地区地区会
住みよいまちづくり新莊会」

住みよいまちづくり新莊会 検索

※検索のほか、QRコードからもアクセスできます。

2月28日(金)、「市民の集い」が水戸市民会館において開催され、新莊地区では、次の方々が永年勤続町内会長・自治会長ほつ賞を受賞されました。

・二十五年勤続
松枝 誠一様(栄町二丁目)
・十年勤続
泉 幸雄様(八幡町15)
若松 一成様(北町)
小田野輝夫様(東新)

令和6年度 水戸市ほつ賞受賞者

10月23日(水)、水戸市社会福祉大会が水戸市民会館において開催され、新莊地区では、次の方々が多年にわたる地域福祉の増進の功績により表彰されました。

・民生委員・児童委員
松枝 道子様(栄町二丁目)
・社会福祉協力共助者(評議員)
川又 一郎様(新莊会会長)

第55回 市社会福祉大会顕彰者



ダンススポーツ



コーラス



太極拳



和宝会 (笛、仕舞)



歌謡 (歌唱)



はまゆう会 (民舞)

新莊 ふれあいまつり

発表会、その他一部紹介



童謡 (合唱)



友美会 (民謡)



お茶席 (石州流茶道)



模擬店 (肉まん、あんまん)



豚汁の販売



指圧体験教室



見守りボランティアの女性の会の皆さん



子育て広場クリスマス会
参加の皆さん

12月19日(木)午前、新莊市民センターホールにおいて子育て広場のクリスマス会が、親子15組30人が参加し実施されました。
このクリスマス会は3年目で、見守りボランティアの新莊女性の会支援のもと、ピアノ演奏による合唱や、色々なゲームが行われ、会は大変盛り上がり終えました。

**クリスマス会
を開催**

令和6年度 子育て広場

新莊地区防災研修会

「東京臨海広域防災公園・そなエリア東京での防災体験学習ツアー」を研修して

12月25日（水）、晴天に恵まれたこの日、そなエリア東京「防災体験学習施設（江東区有明）」において、36名が参加し「東京直下型地震72時間ツアー」を中心とした防災体験学習ツアーを研修しました。

このツアーは地震災害直後の支援が少ない時間を生き抜く知恵を学ぶ体験学習ツアーです。被災地や避難所の様子を再現した実物大のジオラマ展示や補助員の解説とクイズ形式の進行により、身をもって地震災害を体験学習することができました。研修時間は約一時間でした。

今回の研修では、バスの往路移動の際、水戸市制作の「特殊詐欺被害防止呼びかけ」動画が初

上映され、参加者がインタビュを受けた様子がNHK報道される機会がありました。研修後は、羽田空港第2ターミナルで自由時間を過ごし帰路につきました。



被災地の疑似体験



そなエリア東京玄関前にて

新莊地区「コミュニティプラン改訂版「心豊かなふれあいのまちづくり」を発行

住みよいまちづくり新莊会は、市の計画に基づき3月1日、関係団体と協力し、新莊地区コミュニティプランを発行しました。

このプランは、新莊地区の人口減少、少子高齢化等の課題を受け「心豊かなふれあいのまちづくり」の将来像や課題の解決に向

けた活動計画で、平成26年に初めて作成され、今年度10年目の見直しを行い改訂版を作成しました。改訂内容は、地域団体の連携・協力の項目を新設したほか、現況を更新し、細部の実施内容を整理し実態に即したものに変更しました。

令和6年度

新莊地区市民運動会

開催

10月13日（土）午前、快晴のなか新莊小学校校庭において、令和6年度新莊地区市民運動会が川又一郎実行委員長のもとスポレク部計画により、午前中開催されました。



ジャンケン勝ち抜きゲーム

令和6年度
第2回
ユニカール大会で
和気あいあい

結果	
優勝	三田部志げ・寺門恵美子・竹貫純子チーム
二位	鶴田英一・小網昇・橋本隆志・袴塚孝太チーム
三位	龍崎正紀・樺沢庸平・菅野俊安チーム
四位	横山かな・横山にな・寺門るかチーム



投球練習

2月18日（日）、新莊市民センターにおいて43名が参加して本年度2回目のユニカール大会が行われました。12チームにより1チーム4人7試合が実施され、和気あいあいゲームを楽しみました。

新莊地区歩く会

水戸のロマンチックゾーンを歩く

11月10日（日）、新莊地区歩く会が、雨模様の中、水戸のロマンチックゾーンにおいて実施されました。33人の参加者で9時に出発し登り下りのある約5キロの道のりを約2時間半で歩きました。歩数は約1万歩でした。

コースは、新莊市民センター出発後、祇園寺、八幡宮、神明水、湧水群、曝井、愛宕山古墳を経て同神社下で小休止。最後に常磐共有墓地、回天館に先人を訪ね、あじさい広場で各自弁当を受領し自由解散となりました。



祇園寺梅檀（センダン）及び本堂前にて

新莊散策

旧町名シリーズ(6)

緑町地区「木の折町」

緑町地区（緑町一丁目・二丁目）にあった旧町名の木の折町を紹介します。（地図参照）

この地名は、以前は常磐村東原と呼ばれました。昭和八年水戸市に合併され東原町となり、翌九年東原町の一部に小字名を付け、木ノ折町が新設されました。木の折町は、昭和四十三年に緑町一丁目、緑町二丁目となりました。

一・農学校の開校

この地域周辺は公共施設で占められており、特に県立歴史館のある地（木の折町）には、明治期から約七十年間、県立農学校（後に県立水戸農業高等学校に改称）が開校し、時代の進展と社会の要請に応じて、幾多の俊秀を排出した歴史がありました。

○県立農学校時代

茨城県は明治28年、従来の慣行農法に代わり科学的近代農法の学理と實際を教授するため県中央農事講習所が南三の丸に開所し、翌年県簡易農学校が設立しました。

明治33年には茨城県農学校と改称され、場所は常磐公園（偕楽園）に近く自然美に恵まれた閑静な常磐村東原の地が選ばれ、新築開校しました。翌年には茨城県立農学校と改称され、県下唯一の県立農学校



明治・大正期の県立農学校校舎全景
(手前の表門は現在の県立歴史館南門)

として本県農業界に輝かしい足跡を残す俊秀を養成しました。当時、当校のような学区制は他になく県内各地はもろろん栃木や福島からの入学者がありました。○県立水戸農学校（県立水戸農業高等学校）時代
大正12年になると郡制廃止に



凡例
青字：旧町名
赤字：現在の町名等

伴い、校名は県立水戸農学校と改称しました。農場の規模も拡大し、開校当時の実習田の約82アール（約90m×90m）の面積は水田と畑合わせ約5倍半（450アール）となりました。

大正後期から昭和初期は、恐慌、戦争で食料増産

のため昼夜のない日々が続き、報国隊が結成され、県内各地はもろろん遠くは北海道まで援農隊が派遣された激動の時代でした。

戦後は、昭和23年新制高校移行により県立水戸農業高等学校と改称。教育方針ではスポーツ奨励を宣言し「天下に水農あり」の名声を広める黄金時代を築きました。

昭和45年、本校は那珂町（現在の那珂市）に移転し、現在の県立水戸農業高等学校となりました。

二・県立歴史館の開館

学校跡地には、明治百年記念事業の一環として県立歴史館が建設され、昭和49年に開館し今年度創立50周年を迎えました。ここには、原始古代から近代に至る迄の県内の史料が数

多く所蔵保管されております。また敷地内には、南側に復元された県立水戸農業高等学校旧本館と当時植ええられ72年経つ銀杏並木が遺されているほか、県指定文化財の旧水海道小学校校舎、旧茂木家宅（江戸時代の農家建築）などが移設展示されております。

令和6年度 新莊地区

『福寿のつどい』開催

9月16日（月）敬老の日、令和6年度新莊地区「福寿のつどい」が残暑厳しい曇天のなか、新莊市民センターにおいて笹島隆治新実行委員長主催のもと袴塚禮子実行委員長代行以下29名の支援により開催されました。

この会の参加者は、令和四年度から新しい敬老会の事業により、75歳、80歳、85歳及び90歳以上に達する方々（4月～翌3月生まれ）を対象としております。今年度は、該当の招待者473人中、昨年度とはほぼ同じ53名の方が参加されました。

前半の式典では、高橋靖水戸市長はじめ多くの来賓の方々に祝辞をいただき、若松一成様に参加者を代表して謝辞をいただきました。

後半のアトラクションでは、はまゆう会様に「花笠音頭、東京音頭」2曲の民謡舞踊を、茨城県民オペラ協会有志の皆様「朧月夜・夏は来ぬ」など、多くの曲を

三・その他

この地には古くは、久保町（大工町3丁目）との境の地に、光圀公が命じて移設した親鸞上人ゆかりの三縁山浄安寺があります。また、公共施設では、県立青少年会館や、水戸市北消防署があります。

ピアノ伴奏による二重唱により披露していただきました。

会の最後は実行委員と共に昨年同様「ふるさと」を合唱し、和やかに終了しました。



はまゆう会の皆様



茨城県民オペラ協会二重唱の皆様

編集部委員

川又健志・塩井雅子・岩淵延子